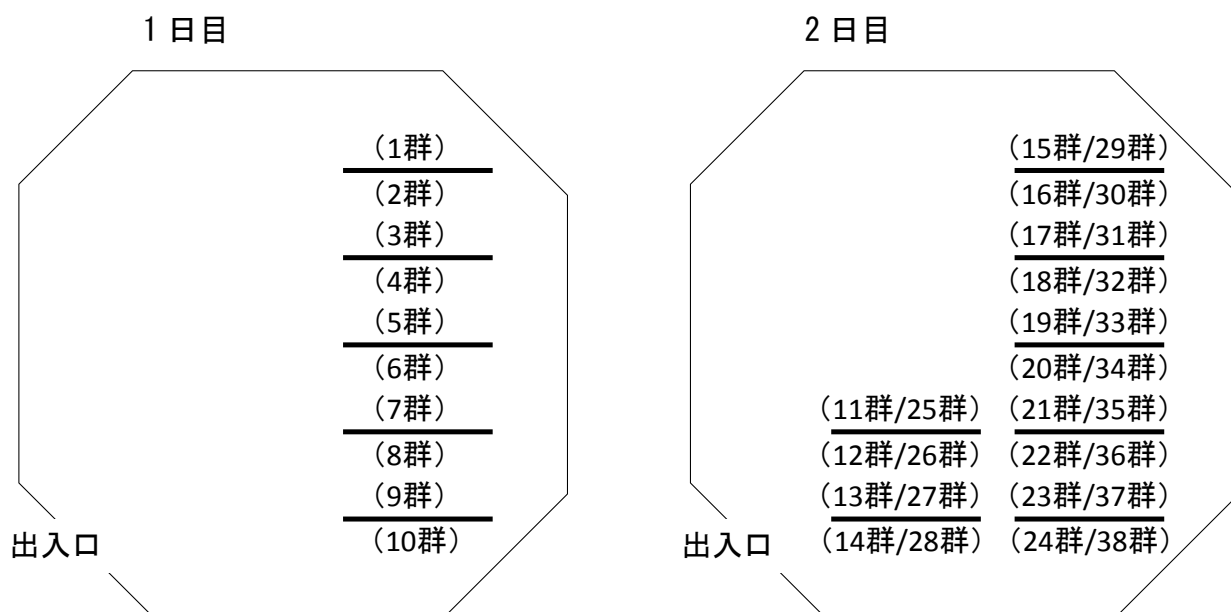


発表演題群 配置図



1 日目（土）午後

第 1 群 公衆衛生看護管理（13:05～13:55）

座長：鎌田 久美子（公益財団法人 福岡県すこやか健康事業団）

1-1 タイムスタディによる保健所精神保健担当保健師の業務時間量(その1)

磯村 聡子（山口大学大学院医学系研究科）

1-2 タイムスタディによる保健所精神保健担当保健師の業務時間量(その2)

守田 孝恵（山口大学大学院医学系研究科）

1-3 保健師の育児休業の経験と学びによる成長プロセス

香西 真由美（高松市健康福祉局長寿福祉部地域包括支援センター）

1-4 行政保健師の産前・産後休暇と育児休業取得がキャリア形成に及ぼす影響

杉山 眞澄（静岡県立大学看護学部）

1-5 統括保健師としての活動の取組み

—2年目の活動報告—

牧野 忍（豊橋市保健所）

1-6 市町村合併前後における保健師の地域アセスメントの様相

塩見 美抄（兵庫県立大学 看護学部）

1-7 市町村保健師の政策参加意識

市町村保健師の政策形成参加に関するアンケート調査より

清水 一二三（同志社大学大学院総合政策科学研究科博士後期課程）

第2群 地域づくり・被災地の地域づくり (14:05~14:55)

座長：高橋 和子 (宮城大学看護学部)

- 2-1 津波浸水地域住民の健康支援について
菅野 清子 (仙台市若林区保健福祉センター家庭健康課)
- 2-2 被災地における運動による絆づくりの取り組み
佐々木 彩 (名取市保健センター)
- 2-3 東日本大震災から5年経過したY地区の現状と健康課題
菊地 愛未 (名取市保健センター)
- 2-4 保健師学生のヘルスポランティア活動の意義と効果
牧 千亜紀 (東北文化学園大学医療福祉学部看護学科)
- 2-5 地域基盤型のヘルスポランティア教育プログラムに参加した学生のリフレクション・プロセス
芝田 ゆかり (朝日大学保健医療学部看護学科)
- 2-6 多領域協働による地域志向人材育成のための学士課程教育プログラムに看護学領域が参画する意味
履修学生へのインタビューより
牛尾 裕子 (兵庫県立大学看護学部)
- 2-7 地域に暮らす要介護高齢者と子どもの世代間交流の実態
文献研究を通して
柴田 美意子 (平成医療短期大学)

第3群 親子保健① (13:05~13:55)

座長：有本 梓 (横浜市立大学大学院医学研究科)

- 3-1 人工死産の要因と対策
人工妊娠中絶(人工死産)に関するアンケート調査から見えてきたもの
黒木 優美子 (宮崎県福祉保健部健康増進課)
- 3-2 ポピュレーションアプローチによる妊娠期の支援方法の検討(第1報)
河村 清美 (泉大津市立保健センター)
- 3-3 ポピュレーションアプローチによる妊娠期の支援方法の検討(第2報)
岡本 かおり (泉大津市立保健センター)
- 3-4 妊娠に戸惑い、困惑する妊婦の把握に関する考察
高遠 幸子 (岐阜市健康部南市民健康センター)
- 3-5 妊娠届出時アンケートにみられるハイリスク妊婦とローリスク妊婦の特徴
中村 千秋 (唐津市役所 保健福祉部保健医療課)
- 3-6 妊娠期から始まる切れ目ない支援の充実に向けた各種教室の再編・強化の取り組み(第1報)
伊藤 加奈子 (仙台市青葉区宮城総合支所)

- 3-7 妊娠期からの切れ目のない子育て支援サービスの構築に関する活動報告
子どもの世話をキーワードに
藤田 博美 (富士宮市役所健康増進課)

第4群 親子保健② (14:05~14:55)

座長：岩本 里織 (徳島大学大学院医歯薬学研究部地域看護学分野)

- 4-1 不適切な栄養摂取により体重増加不良を呈した事例への保健師のかかわり
小澤 敬子 (あいち小児保健医療総合センター保健センター)
- 4-2 発達障がい児早期支援に関する保護者ニーズ
植松 勝子 (中部学院大学看護リハビリテーション学部看護学科)
- 4-3 発達障害児の母親の気持ちに寄り添う保健師の効果的な支援
阿部 真実 (元神戸大学医学部保健学科看護学専攻)
- 4-4 幼児期の広汎性発達障害児を育てる母親の生活上必要な支援
今井 しのぶ (前・愛知県江南市役所)
- 4-5 北杜市における5歳児相談の取り組み
武井 勇介 (北杜市役所市民部健康増進課)
- 4-6 A町の「つなぐ」子どもの発達支援事業について
—ことばの教室の実態調査より—
土本 千景 (御嵩町役場)
- 4-7 地域支援力を高める保健所の発達障害児支援への取り組み
國富 節子 (岡山県備前保健所東備支所)

第5群 学校保健 (13:05~13:55)

座長：中村 富美子 (静岡県沼津市立大岡小学校)

- 5-1 高等学校女子生徒の将来の妊娠・出産に向けた健康管理の実態
小林 亜由美 (群馬パース大学保健科学部看護学科)
- 5-2 「青年期のメンタルヘルスと支援」をテーマとした啓発事業の取り組み
伊藤 恵子 (仙台市青葉区保健福祉センター)
- 5-3 性差に着目した若者の献血に関する実態および意識
眞壁 美香 (大阪府立大学大学院看護学研究科博士前期課程)
- 5-4 大学生の精神保健についてのスクリーニング検査に関する文献検討
富樫 和枝 (東北文化学園大学医療福祉学部看護学科)
- 5-5 大学生の精神的健康と社会関係資本及び社会的スキルの関連
性別による比較
阿部 智美 (宮城大学看護学部)
- 5-6 「精神疾患を患う親と暮らす子どもの理解と対応」に関する教員研修の検討
田野中 恭子 (佛教大学保健医療技術学部看護学科)

5-7 スキルラダーを活用した養護教諭研修会の試み

—救急処置のスキルアップ—

中村 富美子(静岡県沼津市立大岡小学校)

第6群 国際保健(14:05~14:55)

座長:柳澤 理子(愛知県立大学看護学部)

6-1 日本に紹介された「ネウボラ」に関する文献研究

高城 智圭(神戸常盤大学保健科学部看護学科)

6-2 保健師基礎教育におけるグローバル教育に関する文献検討

小寺 さやか(神戸大学大学院保健学研究科)

6-3 保健師による在日外国人支援の特徴に関する文献検討

中世古 恵美(園田学園女子大学人間健康学部人間看護学科)

6-4 日本人男性を夫にもつ子育て中のアジア人女性が家族との関係で抱く困難感

網谷 華(福井県奥越健康福祉センター)

6-5 北タイに暮らす日本人の介護ニーズ

大西 美智恵(香川大学医学部看護学科)

6-6 韓国の保健所における禁煙事業と看護職の役割

松本 泉美(畿央大学 健康科学部 看護医療学科)

第7群 高齢者保健①(13:05~13:55)

座長:川崎 千恵(厚生労働省 国立保健医療科学院生涯健康研究部)

7-1 地域包括支援センター看護職員が考える医療の介入を必要とする高齢者の困難事例の様相

小宮山 恵美(帝京大学大学院医療技術学研究科看護学専攻)

7-2 豪雪地帯・無医地区の高齢者の最期の場に関する意向と在宅死を可能にする条件

小山 歌子(新潟医療福祉大学健康科学部)

7-3 「超高齢者家族の終末期医療への態度」に関する医療従事者の語りかた

山本 真理子(大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻)

7-4 石巻管内の高齢者介護施設における看取りの実態について

地域包括ケア体制の構築に向けての取組

菅原 真弓(宮城県東部保健福祉事務所(宮城県石巻保健所))

7-5 高齢者介護施設の感染予防における看護師の役割に関する文献検討

高屋 麻美(青森県立保健大学大学院 地域保健福祉学分野 ヘルスプロモーション領域)

7-6 地域在住一般住民高齢者における喫煙量と認知機能の関連性について:SONIC研究

澤山 泰佳(大阪大学大学院医学研究科保健学専攻総合ヘルスプロモーション科学講座)

7-7 認知症予防行動の継続による高齢者の認知機能の変化

田中 輝美 (金沢市地域包括支援センター)

第8群 高齢者保健② (14:05~15:05)

座長：表 志津子 (金沢大学医薬保健研究域保健学系看護科学領域)

8-1 大学との協働による高齢者共助マップ共創システムに対する老人会会員の意識調査
—ICTを活用した安心安全な見守り共助システムの開発—

殿山 範子 (金沢医科大学看護学部(公衆衛生看護学))

8-2 アクションリサーチにおける参加観察の体験からの一考察

齋藤 千尋 (青森県五所川原保健所)

8-3 地域包括ケアシステム構築における市町村保健師の役割 第1報 市町村編

吉田 知可 (大分県高齢者福祉課)

8-4 地域包括ケアシステム構築における保健所と保健師の役割 第2報 保健所編

森松 薫 (福岡県糸島保健福祉事務所)

8-5 地域包括ケアシステム構築における市町村保健師と保健所保健師間の連携の実態
と課題 第3報 政令市編

志村 明子 (東京都東和市福祉部健康課)

8-6 養護者による高齢者虐待の予防における市町村保健師の認識と訪問支援との関連

岡島 さおり (札幌市保健福祉局高齢保健福祉部)

8-7 認知症高齢者の家族介護者の介護に伴う感情とその関連要因

平沼 千恵美 (埼玉県飯能市健康福祉部健康づくり支援課)

8-8 自主グループ活動に参加する独居高齢者の継続参加の意味づけ

安孫子 尚子 (聖泉大学看護学部)

第9群 現任教育① (13:05~13:55)

座長：酒井 太一 (順天堂大学保健看護学部)

9-1 新人保健師の入職4か月間の家庭訪問の実態(第1報)

—訪問件数と自己評価—

佐伯 和子 (北海道大学大学院保健科学研究院)

9-2 新人保健師の入職4か月間の家庭訪問の実態(第2報)

—指導者からの評価—

水野 芳子 (北海道大学大学院保健科学研究院)

9-3 経験年数5年以下でも家庭訪問技術が高い保健師の特徴

経験年数と相関のある技術に焦点を当てて

岡本 玲子 (大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻)

-
- 9-4 初任期 1 年目の行政保健師の個別支援事例からの学びの現状と現任教育方法の検討
種本 香 (聖泉大学看護学部)
-
- 9-5 A町における新人保健師教育の取り組み
～実施経過と今後の課題～
中里 早苗 (岩手県軽米町)
-
- 9-6 新人保健師のための訪問指導技術・能力の評価ツールの開発
—乳児訪問指導で用いる観察技術の実施状況と自己評価—
稲毛 映子 (文京学院大学保健医療技術学部)
-
- 9-7 保健事業運営におけるPDCAを意識したシートの活用と能力開発
手銭 久江 (雲南市健康福祉部健康づくり政策課)
-

第 10 群 基礎教育① (14:05～14:55)

座長：鈴木 るり子 (岩手看護短期大学専攻科地域看護学専攻)

-
- 10-1 公衆衛生看護実習の評価(第1報)
—学生の到達度自己評価から—
田多良 佳代(宮崎県立看護大学)
-
- 10-2 公衆衛生看護学実習の評価(第2報)
—継続訪問実習における学生の自己評価から—
高橋 秀治 (宮崎県立看護大学)
-
- 10-3 公衆衛生看護学実習の評価(第3報)
—学生が保健活動を行った特定地区の住民の変化から—
松本 憲子 (宮崎県立看護大学 看護学部 看護学科)
-
- 10-4 保健師に求められる実践能力到達度の講義等後と実習終了後での比較検討
柿元 美津江(鹿児島純心女子大学 看護栄養学部)
-
- 10-5 修士課程における保健師教育
—総合大学の強みを活かした教育の展開—
和泉 比佐子(神戸大学大学院保健学研究科)
-
- 10-6 大学院保健師教育における地域診断教育の内容と振り返り
永田 智子 (東京大学大学院医学系研究科地域看護学分野)
-
- 10-7 HIA(健康影響予測)を導入した地域診断の教育効果
大巻 悦子 (森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科)
-

2日目(日) 午前

第11群 親子保健③ (9:30~10:15)

座長：都筑 千景 (神戸市看護大学)

- 11-1 希望する子どもの数に近づけるための支援策に向けた一考察
黒川 恵子 (京都府中丹東保健所)
- 11-2 母乳育児の推進をめざした巡回母乳子育て教室の取組みの効果検証
中尾 由紀美 (大阪市都島区保健福祉センター)
- 11-3 妻の妊娠期と産後における父親の健康関連 QOL について
量的・質的研究
高木 悦子 (人間総合科学大学 保健医療学部 看護学科)
- 11-4 育児期女性における月経前気分不快症状と Quality of Life(QOL)との関連
都筑 千景 (神戸市看護大学)
- 11-5 都市部に居住する母親の産後 6 カ月間におけるヘルスリテラシー発揮のきっかけと
情報収集の方法—近隣に友人の少ない母親に着目して—
小村 文乃 (千葉大学大学院看護学研究科博士前期課程 荒川区保健所)
- 11-6 乳児早期までの子どもにおけるヒヤリハット発生の関連要因
上田 みずほ (愛知厚生連 江南厚生病院)

第12群 親子保健・家族支援 (11:10~11:55)

座長：北宮 千秋 (弘前大学大学院保健学研究科)

- 12-1 就労しながら乳幼児を育てる母親の精神的健康に関連する要因
育児環境・育児感情に焦点をあてて
須田 由紀 (山梨県立大学看護学部)
- 12-2 育児環境からみたワーク・ファミリー・コンフリクト
就労しながら乳幼児を育てる母親に焦点をあてて
茂手木 明美 (西武文理大学看護学部)
- 12-3 食物アレルギーの子どもの母親が養育上直面する問題に対処するヘルスリテラシー
八尾坂 志保 (新潟大学大学院保健学研究科博士前期課程)
- 12-4 知的障害児の親の会に対する参加者のニーズの変化のプロセス
平尾 由布子 (長崎県西彼保健所地域保健課)
- 12-5 未就学の発達障害児を持つ母親の相談過程から捉えた支援のあり方
加藤 立子 (岡山県新見公立大学大学院看護学研究科専攻)
- 12-6 里親子の母子健康手帳に関する課題検討
池田 佐知子 (福岡大学医学部看護学科)

第 13 群 災害と保健活動・健康危機管理①（9:30～10:15）

座長：森松 薫（福岡県糸島保健福祉事務所）

- 13-1 第 6 次都道府県医療計画における健康危機管理関連指標設定上の課題
松本 珠実（国立保健医療科学院生涯健康研究部）
- 13-2 地域全体での子どもの事故防止と防災への取り組み～10 年間の活動報告～
阿部 由佳（仙台市太白区保健福祉センター家庭健康課）
- 13-3 子育て支援センターにおける災害支援の準備に対する課題
藤田 千春（国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科）
- 13-4 在宅パーキンソン病患者の災害への思い
宇田 優子（新潟医療福祉大学健康科学部看護学科）
- 13-5 難病患者の災害時の自助・共助の状況に関する検討
金高 久美子（神奈川県茅ヶ崎保健福祉事務所）
- 13-6 サービス担当者会議を活用した関係機関連携による在宅療養者の防災支援の検討
高橋 和子（宮城大学看護学部）

第 14 群 災害と保健活動・健康危機管理②（10:20～11:05）

座長：荒川 恵子（名取市保健センター）

- 14-1 東日本大震災の被災地域地区担当保健師として活動して
外部から任期付職員保健師として被災地域を担当する意味
長雄 市子（名取市役所）
- 14-2 東日本大震災の被災地の保健師活動を振り返る
～外部からの多職種および派遣保健師の支援を受けて
荒川 恵子（宮城県名取市役所）
- 14-3 被災時の外部支援の効果的な活用について考える
菊田 久弓（宮城県精神保健福祉センター）
- 14-4 災害時の実態理解を深める保健師研修会の工夫
奥田 博子（国立保健医療科学院 健康危機管理研究部）
- 14-5 2つの災害時保健活動から考える人材育成のバトン
横江 寿美子（宮城県大崎市役所民生部健康推進課）

第 15 群 災害と保健活動・健康危機管理③（11:10～11:55）

座長：安齋 由貴子（宮城大学看護学部）

- 15-1 被災地の保健師が認識している復興期における仮設住宅入居者の実態と支援の方向性
大津 裕香（東北福祉大学健康科学部）
- 15-2 災害公営住宅入居者支援プログラムの企画と実施における関係機関連携の成果
安齋 由貴子（宮城大学看護学部）

- 15-3 避難所における中学生の役割認識
北海道東部太平洋沿岸部地域における調査
磯野 晃照 (北海道大学大学院保健科学院)
- 15-4 保健師基礎教育機関における放射線教育の実態
麻原 きよみ (聖路加国際大学大学院看護学研究科)
- 15-5 福島原発事故により妻子が自主避難した男性労働者に関する調査 第1報
自主避難者の実態
黒田 真理子 (東京医科大学医学部看護学科)
- 15-6 東日本大震災後の精神保健活動 5年を振り返って
震災遺族の会・断酒会・節酒会活動を通して
相澤 寛子 (名取市保健センター)

第16群 障害者(児)保健① (9:30~10:15)

座長：菅原 京子 (山形県立保健医療大学)

- 16-1 地域で生活している難病療養者の生活のしづらさ
鶴見 三代子 (茨城県立医療大学保健医療学部看護学科)
- 16-2 ALS療養者と看護者が抱えるコミュニケーション上の困難性に関する文献検討
和山 郁美 (東北大学大学院医学系研究科保健学専攻公衆衛生看護学分野)
- 16-3 宮城県石巻保健所管内の神経難病患者への支援報告
佐藤 史穂 (宮城県東部保健福祉事務所(宮城県石巻保健所))
- 16-4 退院支援システム改訂による病棟看護職員の退院支援実践能力の変化
伊藤 裕基子 (JA 愛知厚生連江南厚生病院 医療福祉連携室)
- 16-5 地域でつくる高次脳機能障害者支援ネットワーク
「宮城県栗原圏域モデル」の構築に向けた取り組み
辻 真由子 (宮城県北部保健福祉事務所栗原地域事務所)
- 16-6 生活困窮者相談支援事業における相談員へのスーパーバイズを通して
門田 加奈 (藍野大学短期大学部専攻科)

第17群 成人保健 (10:20~11:05)

座長：森鍵 祐子 (山形大学医学部看護学科)

- 17-1 都市部地域在住の壮年期住民におけるロコモティブシンドロームの実態とリスク要因
Yokohama Locomo Study
伊藤 絵梨子 (横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野)
- 17-2 非肥満有所見者の生活習慣の特徴
特定健康診査における標準的質問票との関連から
小山 麻由子 (倉敷市保健所健康づくり課健康増進センター)

- 17-3 20～30代の漁業関係者への糖尿病予防のための生活改善にむけた取り組み
～生活習慣アンケート調査結果をふまえた保健指導を通して～
廣瀬 美帆 (延岡市役所 健康増進課)
- 17-4 CKDリスクのある住民へのインタビューから見た、CKD重症化予防のための働きかけ
—修士課程保健師教育における地域マネジメント実習—
工藤 咲季 (大分県立看護科学大学大学院博士前期課程)
- 17-5 地域住民における食行動と肥満の関連:久山町研究
石田 有紀 (九州大学大学院医学研究院衛生・公衆衛生学分野)
- 17-6 漁村地区の食文化に着目した高血圧症一次予防のための保健活動
—修士課程保健師教育における地域マネジメント実習—
山本 真悠子 (大分県立看護科学大学大学院博士前期課程)

第18群 感染症保健 (11:10～11:55)

座長：松田 宣子 (関西国際大学保健医療学部 看護学科在宅・公衆衛生看護学)

- 18-1 組織の行動変容を目的とした集団健康教育の効果の検討
高齢者・障害児(者)施設対象の感染症対策研修会からの考察
関根 綾希子 (新潟県福祉保健部福祉保健課)
- 18-2 保健師が担う高齢者肺炎対策
～啓発活動に伴う肺炎球菌ワクチンの接種率の変化～
若山 雄大 (今金町役場 保健福祉課 健康づくりグループ)
- 18-3 結核患者の禁煙指導に対する保健師の意識
島村 珠枝 (公益財団法人結核予防会結核研究所対策支援部)
- 18-4 対応困難な結核患者へ保健師が行った支援の内容と特徴
安本 理抄 (大阪府立大学大学院看護学研究科)
- 18-5 結核病床を持つ医療機関から提供される『保健所への連絡票』の検討
永田 容子 (公益財団法人結核予防会結核研究所対策支援部)
- 18-6 結核におけるDOTS対策に関連する文献学的考察
有馬 和代 (大阪市東住吉区保健福祉センター)

第19群 高齢者保健③ (9:30～10:15)

座長：萩原 智代 (日本赤十字秋田看護大学)

- 19-1 新興住宅地域に住む高齢者のソーシャルネットワークと身体心理的特性との関連
—高齢者サロン参加者に着目して—
根来 佐由美 (大阪府立大学看護学研究科)
- 19-2 高齢者の役割見直しにより創出された住民主体の地域活動が10年間継続された効果
交流事業を創出したN地区における参加群と非参加群の比較
佐藤 美由紀 (神奈川工科大学看護学部)

19-3 都市部在住高齢者の介護予防教室への参加による活動意義と関連する要因

宮田 莉英 (北海道大学大学院保健科学院)

19-4 地域在住の独居高齢者が通いの場に参加する理由

男女別の参加する理由に着目して

中村 廣隆 (愛知県半田市役所)

19-5 高齢者サロンにおける男性の参加要因に関連する探索的検討

田島 愛 (岐阜医療科学大学 保健科学部 看護学科)

第 20 群 地域づくり① (10:20~11:05)

座長：山野井 尚美 (岡山県保健福祉部健康推進課)

20-1 高齢者にとって地域活動に参加するということ

離島の地域におけるエスノグラフィー

川崎 千恵 (国立保健医療科学院生涯健康研究部)

20-2 都市部における死別を支え合う地域コミュニティ

小野 若菜子 (聖路加国際大学大学院看護学研究科)

20-3 大都市在住の高齢者が見守りを受けたいと思う相手

仁村 優希 (北海道大学大学院保健科学院)

20-4 地域在住の認知症の疑いのある高齢者への近隣住民によるサポート実施意向

久富 沙織 (北海道大学大学院保健科学院)

20-5 丘陵地に暮らす独居高齢者の生活実態の男女比較

合田 加代子 (香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科)

20-6 都市型準限界集落におけるソーシャルキャピタル評価指標の開発

眞崎 直子 (日本赤十字広島看護大学)

第 21 群 グループ支援・住民組織活動 (11:10~11:55)

座長：春山 早苗 (自治医科大学看護学部)

21-1 ヘルスサポートリーダー支援研修の試み

研修内容と参加者の評価

清水 美代子 (日本赤十字豊田看護大学 看護学部)

21-2 健康推進員の経験によるヘルスリテラシー、ソーシャルキャピタル及び健康行動の特徴

林 千景 (和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科)

21-3 健康づくり自主グループの活動継続を支える要因に関する研究

古谷 彩華 (岩手県釜石保健所)

21-4 介護予防自主グループ設立過程への支援

三村 祐美子 (港区立南麻布地域包括支援センター)

21-5 福島県郡山市における地区組織活動の再検討と育成に関わる実践報告

斎藤 恵子 (福島県 郡山市保健所)

21-6 地域介護力強化を目指す地域組織の成熟状態に応じた活動のプロセス評価に関する研究

森永 裕美子(国立保健医療科学院 生涯健康研究部)

第 22 群 現任教育② (9:30～10:15)

座長：鳩野 洋子 (九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野)

22-1 保健師活動における地域の「健康問題発見」に必要な要素

斎藤 美矢子(山口大学大学院医学系研究科保健学専攻)

22-2 保健所保健師の活動特性に応じた継承における困難と対処方法

管理期保健師へのグループインタビューから

塩川 幸子 (旭川医科大学医学部看護学科)

22-3 行政保健師の地区担当制について考える

地区担当制だからわかること・できること

小尾 恵子 (甲府市役所福祉保健部健康衛生課)

22-4 一人配置保健師の実態と支援体制の課題

松坂 由香里(神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 看護学科)

22-5 保健師の日常活動・実践研究における倫理に関する実態調査:第 1 報

日常活動における倫理的ジレンマや倫理的行動

鳩野 洋子 (九州大学大学院医学研究院保健学部門)

22-6 保健師の日常活動・実践研究における倫理に関する実態調査:第 2 報

—実践研究における倫理的課題と組織環境—

嶋津 多恵子(国立看護大学校)

第 23 群 現任教育③ (10:20～11:05)

座長：斎藤 恵美子 (首都大学東京大学院人間健康科学研究科)

23-1 A 県における中堅保健師の保健師活動の実態と現任教育へのニーズ 1

中堅保健師の到達度の自己評価

荒瀬 みえ (宮崎県看護協会ナースセンター)

23-2 A 県における中堅保健師の保健師活動の実態と現任教育へのニーズ2

～ワークライフバランスとキャリアアップへの意識～

川原 瑞代 (宮崎県立看護大学 看護学部看護学科)

23-3 A 県における中堅保健師の保健師活動の実態と現任教育へのニーズ 3

中堅保健師の現状と現任教育に求めるもの

小野 美奈子(宮崎県立看護大学)

23-4 新潟県中堅保健師研修の効果と効果要因の検討

～介入前後の効果と介入後の継続効果の分析～

石原 美由紀(新潟医療福祉大学大学院)

23-5 中堅期保健師研修 3年間の成果(1)

—実践能力評価尺度を用いた自己評価—

入野 了士 (愛媛県立医療技術大学保健科学部看護学科)

23-6 中堅期保健師研修3年間の成果(2)

—修了生と上司のインタビューによる影響評価—

谷村 千里 (愛媛県宇和島保健所)

第 24 群 現任教育④ (11:10～11:55)

座長：清水 光子 (札幌市立大学 看護学部)

24-1 わが国の行政保健師の人材育成方法に関する文献検討

杉田 由加里 (千葉大学大学院看護学研究科)

24-2 埼玉県及びさいたま市による保健師人材育成プログラムの改訂

(第1報)埼玉県内保健師の現任教育の現状と課題

山口 佳子 (東京家政大学看護学部)

24-3 埼玉県及びさいたま市による保健師人材育成プログラムの改定

(第2報)都道府県による保健師人材育成プログラムに関する調査

浅井 澄代 (埼玉県保健医療部保健医療政策課)

24-4 地域包括支援センター保健師における専門的スキルに関する研究

古賀 佳代子 (福岡大学医学部看護学科)

24-5 委託型地域包括支援センターにおける「地域診断を反映した事業目標作成のための仕組みづくり」に向けた一考察

～地域診断反映の現状とニーズ～

藤本 優子 (神戸市看護大学)

24-6 委託型地域包括支援センターの地域診断を反映させた事業目標作成のための仕組みづくりの検討 ～行政保健師への調査結果より～

藤本 佳子 (神戸市保健福祉局介護保険課)

2 日目 (日) 午後

第 25 群 高齢者保健④ (13:55～14:45)

座長：南部 泰士 (日本赤十字秋田看護大学)

25-1 高齢者における生活活動カテストと健康関連 QOL

渡部 月子 (神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 看護学科)

25-2 運動器機能向上プログラム修了時の基本チェックリストと体力測定結果の検討

継続した自主グループ参加の有無による比較

堀田 邦子 (武庫川女子大学大学院看護学研究科)

25-3 全国のシルバー人材センター会員の健康管理に関する実態調査

米澤 洋美 (福井大学医学部)

25-4 地域高齢者の世帯構造別健康感と幸福感の判断要素に関する基礎的研究

石原 みのり (日立市保健センター)

25-5 転居高齢者の生活適応を促進した要因

古田 加代子 (愛知県立大学 看護学部)

25-6 中山間地域で暮らす後期高齢者の閉じこもり傾向に関連する要因

小規模高齢化集落が大半を占める地域を調査対象として

田中 富子 (吉備国際大学)

25-7 高齢者の社会的孤立と健康に関する文献研究

川南 公代 (武蔵野大学看護学部看護学科)

第 26 群 地域づくり② (14:50~15:50)

座長：中尾 八重子 (長崎県立大学シーボルト校 看護栄養学部)

26-1 新総合事業移行への取り組みからみた行政保健師の課題

中尾 八重子 (長崎県立大学シーボルト校 看護栄養学部)

26-2 新総合事業への移行時に地域包括支援センターの保健師が抱いた困難感と課題

木村 チヅル (長崎県立大学シーボルト校看護栄養学部)

26-3 介護予防システムを推進する保健師の活動の構造(第1報)

—基本属性との関連に焦点をあてて—

吉田 礼維子 (天使大学看護栄養学部)

26-4 介護予防システムを推進する保健師の活動の構造(第2報)

—取り組みを困難にする理由との関連—

若山 好美 (天使大学 看護栄養学部)

26-5 地域包括ケアシステム推進における都市部県型保健所保健師の役割

山田 邦子 (千葉県習志野健康福祉センター(習志野保健所))

26-6 「みて、つないで、動いた」地区活動報告

安井 明美 (堺市南保健センター)

26-7 災害時個別支援計画の取り組み

佐藤 由美 (仙台市泉区保健福祉センター 障害高齢課)

26-8 災害時の保健活動のあり方に関する検討

—被災地支援の経験を生かして—

本塚 真弓 (豊橋市保健所)

第 27 群 親子保健④ (13:00~13:50)

座長：成瀬 昂 (東京大学大学院医学系研究科)

27-1 保健師が認識する産後の母親による乳幼児虐待のリスク要因

奥寺 三枝子 (元岩手県保健師)

- 27-2 子ども虐待のリスクアセスメント指標に関する文献検討
藤村 一美 (山口大学大学院医学系研究科)
- 27-3 熟練保健師が遺した物語から読み解いたコンピテンシー
子ども虐待事例における保健師活動から
市川 かよ子 (東京都福祉保健局多摩小平保健所保健対策課)
- 27-4 養育支援訪問事業の実際と今後の課題
河村 秋 (淑徳大学看護栄養学部)
- 27-5 児童虐待予防研修会に参加した看護職の虐待への支援の実態
上野 昌江 (大阪府立大学大学院看護学研究科)
- 27-6 “気になる子ども”の保護者への支援における保健師と保育士の連携に関する経験
と相互役割期待
大塚 敏子 (浜松医科大学医学部看護学科)
- 27-7 児童虐待予防・支援における児童相談所と市町村の連携・協働に関する文献検討
木嶋 彩乃 (山口大学大学院医学系研究科)

第 28 群 親子保健・健康教育 (13:55～14:45)

座長：柳澤 尚代 (弘前学院大学)

- 28-1 母子保健推進員の乳児家庭全戸訪問活動継続意思に影響する要因
西井 崇之 (関西医療大学保健看護学部)
- 28-2 乳児家庭全戸訪問における母子保健推進員の心理的变化
平尾 恭子 (関西医療大学保健看護学部)
- 28-3 生活保護受給世帯の子どもたちへ食育支援プログラムを実施して
～受給者ボランティアの活用とその効果について～
藤田 恭子 (上尾市役所健康福祉部生活支援課)
- 28-4 家庭内受動喫煙防止への取組～お子さんのいる家庭のたばこについての調査から
～
柳本 祥子 (高知県須崎福祉保健所健康障害課)
- 28-5 小さく生まれた子の親の会を支援して
15年間のあゆみと課題
田代 桃子 (仙台市宮城野区保健福祉センター家庭健康課)
- 28-6 乳幼児期の養育者を対象とした笑いヨガの実践による育児ストレスと不安の変化
尾関 唯未 (岐阜聖徳学園大学 看護学部)

第 29 群 親子保健⑤ (14:50～15:40)

座長：佐川 きよみ (葛飾区保健所青戸保健センター)

- 29-1 幼児を子育て中の母親のもつレジリエンス尺度の開発
岡久 玲子 (徳島大学大学院医歯薬学研究部)

- 29-2 幼児を子育て中の母親の育てにくさに関する尺度開発
岩本 里織 (徳島大学大学院医歯薬学研究部)
- 29-3 3歳児の養育における統制場面でのスマートフォン利用に関する母親の認識
大西 竜太 (北海道大学大学院保健科学院保健科学専攻看護学コース看護学科
目群)
- 29-4 住まい方による育児不安の違いの検討
—3歳児健診での調査—
山本 葵 (小松市役所いきいき健康課)
- 29-5 父親の育児行動および夫からのソーシャルサポートと母親のウェルビーイングの関連
池田 雄二郎 (北海道大学大学院保健科学院)
- 29-6 栃木県 A 町における年長児むし歯罹患状況とむし歯予防行動の検討
阿久津 和子 (国際医療福祉大学保健医療学部看護学科)
- 29-7 萌出期前からの児の歯の健康づくりに取り組んだ保健師活動の展開
—修士課程保健師教育における地域マネジメント実習—
若竹 理沙 (大分県立看護科学大学大学院博士前期課程)

第 30 群 健康教育・健康づくり (13:00~13:50)

座長：村松 照美 (公立大学法人 山梨県立大学 看護学部看護学科)

- 30-1 専門学校を対象にした健康づくり事業の取組みについて
河野 理和子 (仙台市青葉区保健福祉センター家庭健康課)
- 30-2 若い世代の生活習慣病予防を目指して
子育て期の母親への食生活改善と慢性腎臓病 (CKD) 予防の取り組み
小川 実咲 (長崎市市民健康部健康づくり課)
- 30-3 壮年期と高齢期の各世代における生活習慣や健康行動に関する文献検討
～主観的解釈に焦点を当てて～
熊谷 麻紀 (松本大学人間健康学部)
- 30-4 地域社会資源と連携した新たな宿泊型保健指導プログラム (スマート・ライフ・ステイ)
の開発と検証
栄口 由香里 (あいち健康の森健康科学総合センター 健康開発部)
- 30-5 地域社会資源と連携した新たな宿泊型保健指導プログラム (スマート・ライフ・ステイ)
の波及効果の検討
樺山 舞 (大阪大学大学院医学系研究科)
- 30-6 ラフター (笑い) ヨガクラブ参加期間と「こころの状態」の関係
参加中断者と継続者の比較
成木 弘子 (国立保健医療科学院 統括研究官)
- 30-7 「ロコモ」、「健康寿命」の認知度と区民の健康行動の関心について
～区民へのアンケート調査から～
桑原 紀子 (京都市中京保健センター健康づくり推進課)

第 31 群 成人保健・産業保健（13:55～14:45）

座長：和泉 比佐子（神戸大学大学院保健学研究科）

- 31-1 関係機関との協働による地域職域連携推進事業「特定健診等普及啓発イベント」の成果と課題
伊東 沙希（北海道保健福祉部）
- 31-2 A市における特定健診受診者の特徴
渋谷 彩夏（川口市保健センター）
- 31-3 特定健診 5 年未受診者への家庭訪問の有無別の特定健診受診状況
和泉 京子（武庫川女子大学看護学部）
- 31-4 成人男性のがん検診受診勧奨における新たなセグメントの特性分析
—マーケティング手法を用いた調査—
笠原 美香（青森県立保健大学大学院健康科学研究科）
- 31-5 事業場の産業看護職の有無と関連する企業の要因
金森 悟（伊藤忠テクノソリューションズ株式会社）
- 31-6 事業場の救急対応における産業看護職の強みと弱み
松田 有子（国際医療福祉大学 小田原保健医療学部）
- 31-7 事業場の救急対応におけるリーダーシップに関する研究
篠原 信夫（国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科）

第 32 群 産業保健（14:50～15:40）

座長：大神 あゆみ（大神労働衛生コンサルタント事務所）

- 32-1 事業場の自主的産業保健体制を目指した一元管理の構築における実践例の報告
産業保健支援専門機関における健康管理方法の導入（ホテル業）
渡辺 絵里（株式会社メディヴァ保健事業部）
- 32-2 A 企業従業員の 5 年間でのメタボリックシンドローム発症に関する 生活習慣要因の検討
村井 千紘（不二越病院健診センター）
- 32-3 労働者の健診結果の 2 時点変化と食関連保健行動の関係
—過去肥満の有無による検討—
大谷 喜美江（日本赤十字豊田看護大学 看護学部）
- 32-4 労働者の健診結果による指摘の有無と翌年の運動・生活習慣の行動変容段階の関連
富澤 栄子（四国大学看護学部）
- 32-5 IT サービス企業における労働者の職業性ストレスと抑うつ傾向との関連
振本 恵子（県立広島大学大学院生 保健福祉学専攻）
- 32-6 職場のソーシャル・キャピタルと労働者の精神的健康との関連
後藤 理香（札幌市立大学大学院看護学研究科）
- 32-7 東北地方 4 市における生活保護現業員の精神健康度の実態
赤間 由美（山形大学大学院医学系研究科博士後期課程）

第 33 群 障害者（児）保健②（13:00～13:50）

座長：鈴木 良美（東邦大学看護学部）

- 33-1 保健・医療・福祉・教育の連携について**
～放課後等デイサービス利用者の実態から考える～
今中 美紀（明石市福祉部障害福祉課）
- 33-2 専門職間連携における保健師の役割認知と役割期待**
発達障害児支援に関する文献レビューによる考察
石井 美由紀（神戸大学大学院保健学研究科）
- 33-3 医療的ケアが必要な子どもの親の心理過程と必要な支援に関する研究**
～入院中から在宅療養の長期支援を考える～
小野 京子（TSURUMI こどもホスピス）
- 33-4 発達の遅れと発達障害の外国人小児の早期発見・支援における保健師のコンピテンシー**
持田 恵理（大泉町役場）
- 33-5 発達の遅れと発達障害の外国人小児の早期発見・支援の課題**
第 1 報 乳幼児健診における通訳・外国語版質問紙の活用状況
鈴木 良美（東邦大学看護学部）
- 33-6 発達の遅れと発達障害の外国人小児の早期発見・支援の課題**
第 2 報 乳幼児健診以外での発見と対応
五味 麻美（川崎市立看護短期大学）
- 33-7 発達の遅れと発達障害の外国人小児の早期発見・支援の課題**
第 3 報 早期発見・支援の向上のためのニーズ
森山 ますみ（国際医療福祉大学成田看護学部）

第 34 群 精神保健①（13:55～14:45）

座長：守田 孝恵（山口大学大学院医学系研究科）

- 34-1 精神保健医療福祉版の地域包括ケアの取り組み(その1)**
—ケースレビューから事業化までの取り組み—
佐藤 きえ子（宮城県仙台保健福祉事務所（塩釜保健所）黒川支所地域保健班）
- 34-2 精神保健医療福祉版の地域包括ケアの取り組み(その2)**
処遇困難事例の担当者が情報発信する連携パス等の作成とその成果
篠原 真夏美（宮城県大崎保健所）
- 34-3 沖縄県南部保健所における通院患者リハビリテーション事業活動報告**
知花 誠（沖縄県南部保健所 地域保健班）
- 34-4 統合失調症をもち地域で生活する人の睡眠と生活リズムに影響する要因**
三橋 美和（同志社女子大学看護学部）

34-5 地域で暮らす精神障害者に対する苦情相談を寄せた者への保健師の対応
—精神障害者に対する住民の理解を深める日頃の保健師活動との関連—
吉岡 京子 (東京医科大学医学部看護学科地域看護学)

34-6 A保健所における精神障害者の緊急対応に関する実態
梅津 吉孝 (和歌山県湯浅保健所)

第 35 群 精神保健② (14:50~15:40)

座長：岩本 泉 (北海道後志総合振興局保健環境部保健行政室)

35-1 アルコール依存症・薬物依存症家族支援に関する全国調査～その1～
—アルコール依存症家族の相談機関別の特徴—
吉岡 幸子 (埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科)

35-2 アルコール依存症・薬物依存症家族の支援に関する全国調査～その2～
—薬物依存症家族の相談機関別の特徴—
新井 清美 (首都大学東京 健康福祉学部)

35-3 AIDS 発症後支援を通じて自閉症スペクトラム障害診断に至った A 氏への開業保健師としての関わり
北原 慶作 (合同会社 WN ライフ・ながの)

35-4 相談において行政保健師が考える対象との「適切な距離」
—どのような状況を「適切な距離」と考えるのか—
関口 しおり (東京工科大学医療保健学部)

35-5 高齢者の心の健康づくりに向けた取り組みから、地域づくりを考える
福田 しおり (岡山県吉備中央町保健課地域保健班)

35-6 高齢の自殺未遂者支援について
家庭内で孤独感を抱いている A 氏への支援から
清水 唯 (北海道網走保健所健康推進課)

第 36 群 現任教育⑤ (13:00~13:50)

座長：永田 智子 (東京大学大学院医学系研究科)

36-1 市町村保健師の職業的アイデンティティの構造
岩崎 りほ (大分県立看護科学大学 看護研究交流センター)

36-2 市町村保健師の職業的アイデンティティの形成プロセスと影響要因
—複線径路・等至性モデルによる経験の径路の分析—
小路 浩子 (神戸女子大学 看護学部)

36-3 看護職の自己認識達成への支援
—職業的アイデンティティとキャリア開発を繋ぐもの—
鈴木 裕子 (亀田医療大学看護学部看護学科)

36-4 A 県中堅期保健師コンサルテーション事業の取り組みと課題
鈴木 るり子 (岩手看護短期大学専攻科地域看護学専攻)

- 36-5 人材育成をテーマとしたワークショップから得られた保健師の成長の促進要因
彦根 倫子 (神奈川県高齢福祉課)
- 36-6 ワorkshop「語ろう！保健師マインド」を実施して見えた保健師活動を語り合う意義
澁川 悦子 (埼玉県保健師協議会 テーマ別研究会『保健師技術を紡ぐ会』)
- 36-7 自治体保健師の標準的キャリアラダーでのマインド・パッション(意欲喚起)のための
方策
—地域をフィールドとした保健師・看護学生の合宿研修の分析を通して—
角森 輝美 (福岡県久山町役場 ヘルス C&C センター)

第 37 群 基礎教育③・他 (13:55～14:45)

座長：後藤 順子 (山形県立保健医療大学)

- 37-1 駐在保健婦の保健活動から家庭訪問の重要性を読み取る
荒木初子氏の活動を通して
坂崎 京子 (畿央大学健康科学部看護医療学科)
- 37-2 地域の高齢者とその家族への家庭訪問演習における学生の学び
曾根 志穂 (石川県立看護大学 地域看護学)
- 37-3 高齢者を対象とした継続家庭訪問実習に関する学生の学び
道林 千賀子 (岐阜医療科学大学保健科学部看護学科)
- 37-4 保健師教育における高齢者の継続家庭訪問演習を試みての評価
—学生の自己評価を通しての考察—
塚田 久恵 (石川県立看護大学看護学部)
- 37-5 公衆衛生看護学実習における「家庭訪問」の教育方法の検討
兼平 朋美 (山口大学大学院医学系研究科保健学専攻)
- 37-6 A 大学における公衆衛生看護学 OSCE (客観的臨床試験)の実施状況について
田仲 里江 (公立大学法人 札幌市立大学 看護学部)
- 37-7 公衆衛生看護学 OSCE の看護実践力の評価
—平成 26 年度の実施状況及びの到達度の分析—
清水 光子 (札幌市立大学 看護学部)

第 38 群 基礎教育③ (14:50～15:40)

座長：望月 宗一郎 (山梨県立大学看護学部地域看護学領域)

- 38-1 保健師教育課程選択制導入前後の学生実習での技術到達度の比較(第1報)
学生による評価
岸 恵美子 (東邦大学看護学部)
- 38-2 保健師教育課程選択制導入前後の学生実習での技術到達度の比較(第2報)
五十嵐 千代(東京工科大学医療保健学部)

-
- 38-3** 保健師教育課程選択制導入前後の学生実習での技術到達度の比較(第3報)
保健師の自由回答からの分析
齊藤 恵美子(首都大学東京)
-
- 38-4** A 大学公衆衛生看護学臨地実習における実習体験内容と今後の課題
近藤 圭子 (札幌市立大学看護学部)
-
- 38-5** 一教育機関の保健師学生の実習での体験と技術到達度の自己評価
一保健師教育課程選択制導入前後の比較一
吉田 和樹 (首都大学東京)
-
- 38-6** A 大学における公衆衛生看護学実習の課題と効果的な教育方法の検討
西田 洋子 (川崎医療福祉大学医療福祉学部保健看護学科)
-